

静岡県インフラビジョン



0 目次



1	はじめに	1~5
	1) 計画策定の趣旨	
	2) インフラビジョンの対象	
	3) 位置付け	
	4) 基本理念	
	5) 構成と期間	
2	2050年の将来を見据えた目指す姿	6
3	インフラを取り巻く社会情勢の変化	7
4	ビジョン（今後10年間の県土づくりの方向性）	8~12
5	プラン（4年間の県土づくりの施策と取組）	13~31
6	インフラビジョンの実現に向けて	32
	資料編	33~39



1 はじめに



1) 計画策定の趣旨

- ・インフラは、生活・産業など、あらゆる活動を行う上で**必須・不可欠の基盤**であり、**社会全体で保有する貴重な資産**
- ・インフラの整備は、未来を担う将来世代への投資となるため、**戦略的・計画的に進めることが必要**

- ・2018年、本県のインフラ整備の方向性を示す「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」を策定
- ・2022年、当時の社会情勢に合わせ、内容を改定

「国土形成計画(全国計画)」策定 (令和5年7月)

- 未来に希望を持てる国土の将来ビジョンとして、概ね10年間の国土づくりの方向性を定めるもの

「第1次国土強靱化実施中期計画」閣議決定 (令和7年6月)

- 防災・減災、国土強靱化の取組の切れ目ない推進

「第6次社会資本整備重点計画」閣議予定 (令和8年1月)

- 社会資本整備事業を重点的、効果的かつ効率的に推進するための計画

「静岡県総合計画」改定 (令和8年2月)

- ウェルビーイングの視点を取り入れ、県民意識を踏まえた政策の充実・強化

インフラを取り巻く社会情勢の変化

- ・能登半島地震の発生
- ・人口減少・少子高齢化
- ・物価の高騰
- ・インフラ老朽化の加速
- ・IoTやAI技術の進展
- ・インバウンドの増加 など

国の施策との整合
新しい県の方向性との整合

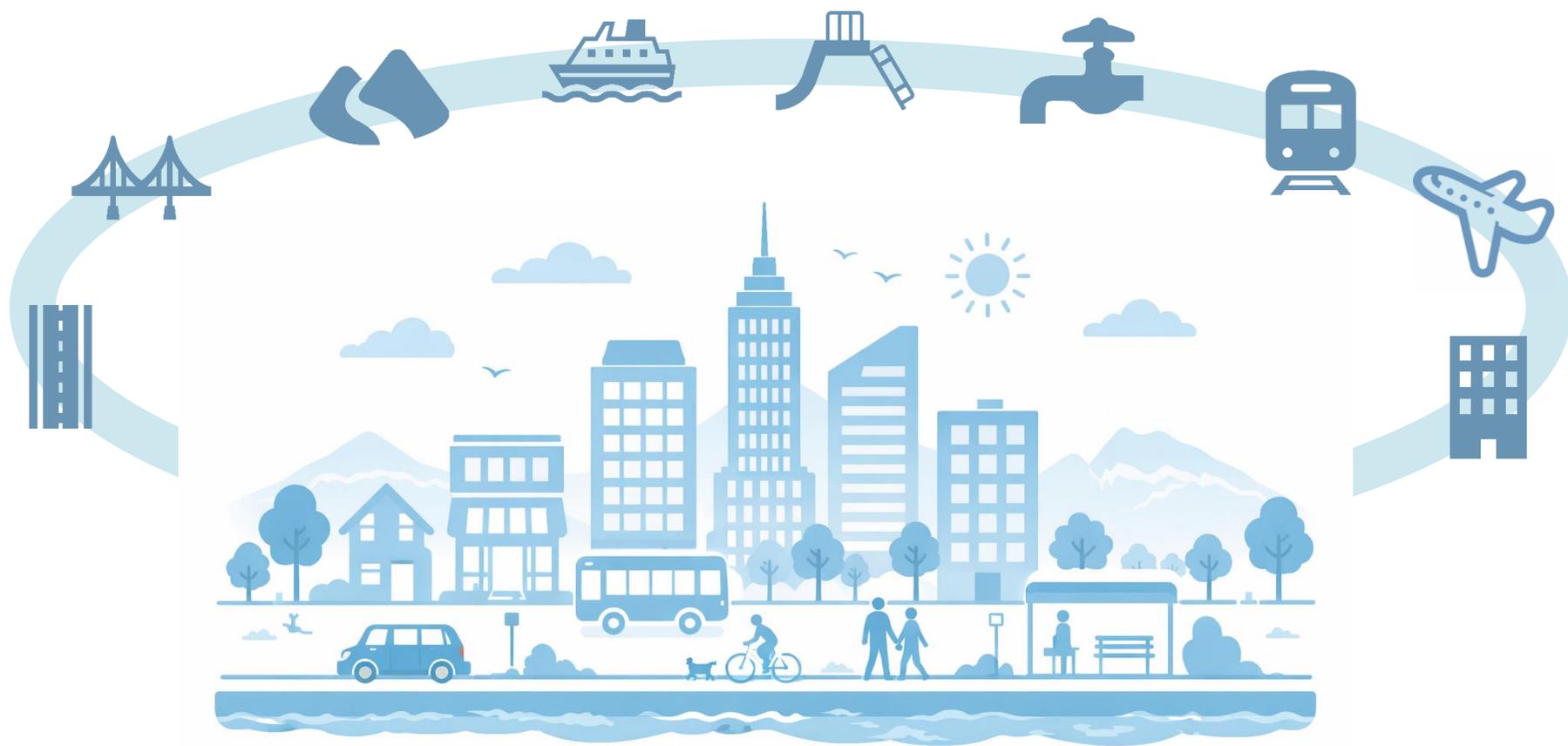
時代の流れを的確に捉え対応

県民生活の土台となるインフラのあり方を示す**新しいインフラビジョンが必要**

2)インフラビジョンの対象

インフラとは、道路・河川・鉄道・港湾・ダムなどの産業基盤の社会資本、および学校・病院・公園・社会福祉施設等の生活関連の社会資本などがある。

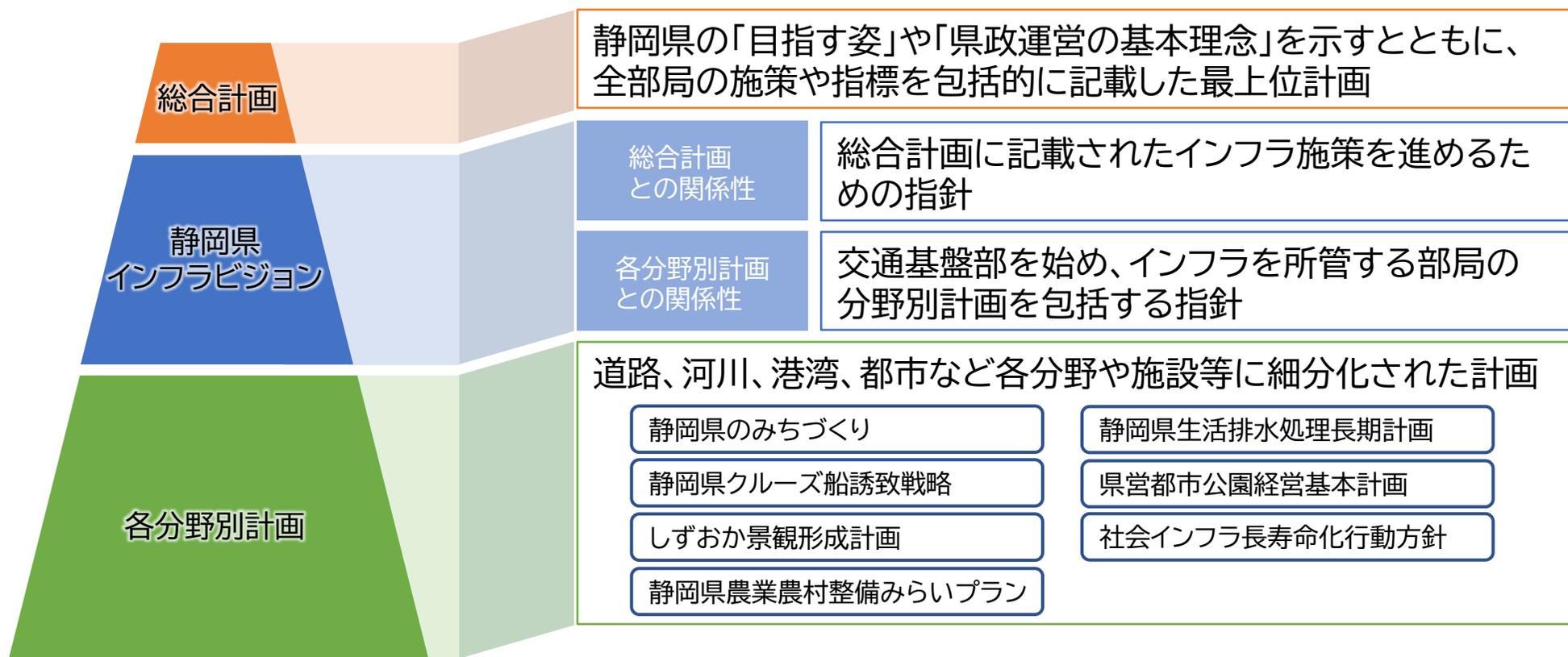
本ビジョンでは、道路・河川・土砂災害防止施設・港湾・漁港・公園・下水道・公共交通(バス、鉄道など)・空港・農地・森林・県有建築物等の整備・管理・利活用を対象としている。



3)位置付け

インフラビジョンは、今後の県づくりの方向を示す基本方針となる「静岡県総合計画」(以下「総合計画」という)を上位計画としている。

総合計画の目指す姿である「幸福度日本一の静岡県」の実現に向け、県土づくりの方向性・考え方を示す指針として策定する。



4)基本理念

＜交通基盤部の基本理念＞
いっしょに、未来の地域づくり。

交通基盤部では、2006 年度に、公共事業を県民の皆様といっしょに進めていくことが大切であるという職員の想いを込め、「いっしょに、未来の地域づくり。」を基本理念として設定。

未来へつなぐインフラマネジメント※1

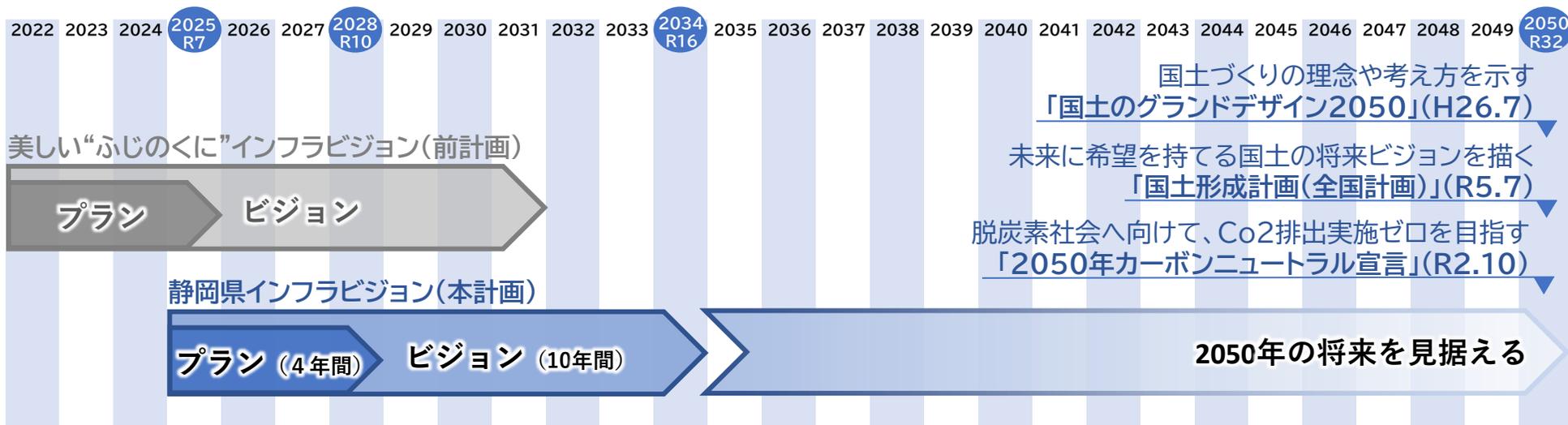
～共創により、整備・管理・活用を刷新し、ストック効果を最大化～



- 自然災害の激甚化・頻発化やインフラ施設の老朽化、人口減少・少子高齢化に伴う担い手不足等により、インフラを取り巻く課題が顕在化している。
- 県民が豊かで安全な生活が実感できる県土づくりを実現するためには、防災・減災対策や社会経済の維持発展の取組が必要である。
- デジタル等の最新技術の活用により生産性の向上を図るとともに、県民、民間企業、教育機関等の垣根を越えた連携・協働の取組により、インフラの質を高め賢く使うようマネジメントし、インフラを将来世代につないでいく。

※1 インフラマネジメント：インフラを、コスト等を意識しながら最も効率的・効果的に整備、維持管理・更新、利活用する手法

5)構成と期間



インフラは、長期にわたり使用するため、中長期的な視点を持って整備していくことが必要となる。

このため、長期的な視点として「国土形成計画(全国計画)」や「国土のグランドデザイン2050」など、国が持つ計画の目標年次と同じ2050年の将来を見据え、中期的な視点として、**概ね10年間の方向性を示す「ビジョン」を設定する。**

この「ビジョン」を達成するため、県の上位計画である「総合計画」と整合を取りながら、**4年間の「プラン」として具体的な施策・取組を設定する。**



幸福度日本一の静岡県

「幸福度日本一の静岡県」

人々が未来に希望を持てる地域づくりに取り組み、個人と社会全体のウェルビーイング※2の向上を図ることにより、オール静岡で「**幸福度日本一の静岡県**」を実現

災害に強く、安定した経済活動・社会活動ができる静岡県

- ・「地域振興」と「防災」の機能の両立により、平時には賑わいがありながら災害にも強い地域で、人々が安心して暮らせる社会
- ・「地域の守り手」である建設産業の維持・活性化により、地域の防災力を強化することで、安心できる地域が構築された社会

人口減少下においても、人々が生き生きと暮らし続けることができる静岡県

- ・民間活力等あらゆる関係者の力を結集することにより、魅力ある地域が構築された社会
- ・持続可能な社会を下支えするインフラを整備・集約・再編することにより、コンパクト・プラス・ネットワークが構築され、人々が生き生きと暮らせる社会

豊かな自然環境のもとで、地域に対して誇りや愛着を持てる静岡県

- ・本県が誇るべき様々な自然資本を活かす取組や、多機能インフラの整備を進め、誇りや愛着を持てる地域が構築された社会

3 インフラを取り巻く社会情勢の変化



前インフラビジョンから引き続く情勢

- 自然災害の激甚化・頻発化
- インフラ老朽化の加速
- 交通弱者の交通事故被害
- 気候危機の深刻化、生態系への影響拡大
- 人口減少・少子高齢化
- 情報通信ネットワークやIoT、AI技術の進展
- 産業競争力に寄与する交通ネットワークの必要性

新たな社会情勢の変化

- 「能登半島地震」の発生
- 埼玉県八潮市における下水道管破損による道路陥没事故の発生
- 多様なモビリティの普及
- インバウンドの増加
- 地域の「サービス利便性低下」「交通空白地域の拡大」
- 2024年問題による輸送能力の低下
- 生物多様性の損失の深刻化
- 物価や労務費の高騰
- 建設産業の時間外労働規制による働き方の変化

社会情勢の変化に伴い、インフラに関わる課題が多様化・複雑化

あらゆる関係者と手を取り合って対応していくことが必要



4 ビジョン（今後10年間の県土づくりの方向性）



- 「ウェルビーイング」の向上を図っていくためには、安定した暮らし、経済・産業の成長、豊かな自然環境の維持が重要であり、「安全・安心」「活力・交流」「環境・景観」を3つの重点分野として設定。
- 複雑に関連する3つの重点分野の課題をあらゆる関係者で解決するため、分野を横断する「共創」を設定。

安全・安心

安全・安心な生活を送れるよう、被害を最小限にとどめる県土づくり

活力・交流

ヒト・モノの流れやまちの賑わいを創出し、持続可能で豊かな県土づくり

環境・景観

美しい景観と豊かな自然があふれ、安らぎを感じる県土づくり

共創

地域のあらゆる力を結集し、いっしょに課題解決する取組



インフラマネジメントによりストック効果を最大化

現状・課題

- 気候変動の影響による自然災害の激甚化・頻発化
- 南海トラフ巨大地震の発生の切迫
- インフラ老朽化の加速による県土の荒廃
- 児童や高齢者などの交通弱者の交通事故被害
- 多様なモビリティの普及

方向性

- 災害に屈しない県土強靱化の取組の推進
- 伊豆半島などの条件不利地域における事前防災対策の強化
- 持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けた取組の加速
- 交通事故被害の減少のために、日常に潜むリスクの除去・軽減対策の強化

橋梁耐震化



土砂災害対策(砂防堰堤)



浸水対策(放水路整備)



現状・課題

- 経済発展に必要な道路網の充実
- 増加するインバウンドに対する受入環境の整備
- 地域の「サービス利便性低下」「交通空白地域の拡大」
- 2024年問題による輸送能力の低下

方向性

- シームレス※3な交通ネットワークの形成・強化
- 港湾・空港の利用促進の取組強化
- 地域の文化的・自然的特性を活かしたコンパクトなまちづくりの推進
- 地域公共交通のリ・デザイン※4による利便性確保
- モーダルシフトや自動運転など物流の効率化の促進

道路による拠点の連結



クルーズ船の誘致



自動運転の導入支援



※3 シームレス：途切れることなく、スムーズに連携・利用できる状態

※4 地域公共交通のリ・デザイン：関係者との連携やデジタル技術の活用等を通じて利便性・生産性・持続可能性を高める取組

環境・景観

美しい景観と豊かな自然があふれ、安らぎを感じる県土づくり

現状・課題

- 気候危機の深刻化、生態系への影響拡大
- 生物多様性の損失の深刻化
- 環境負荷の更なる低減

方向性

- 2050年カーボンニュートラル達成に向けた取組の推進
- 生物多様性の損失を止め、反転させていく取組の推進
- 本県独自の美しい景観を活かす取組の推進
- 循環経済の実現に向けた取組の推進

森の防潮堤づくり



多自然川づくり



景観形成推進アドバイザー派遣



現状・課題

- インフラに関わる課題の多様化・複雑化
 - 社会経済活動を発展させるためのインフラ機能の向上
 - 課題を自分事として捉え、その解決への積極的な関与

方向性

- インフラマネジメントにおける多様な主体との連携
- 業界全体での魅力発信や働き方改革等による担い手確保・育成
- デジタル技術による生産性向上

・多様な主体との連携
・担い手確保・育成
・生産性向上



5 プラン（4年間の県土づくりの施策と取組）



●概ね10年間のビジョンの達成に向け、具体的なプラン(4年間の県土づくりの施策と取組)を設定。

安全・安心

- 施策1 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化
- 施策2 持続可能なインフラメンテナンスの推進
- 施策3 安全で快適な移動空間の確保

活力・交流

- 施策1 陸海空の交通ネットワークの強化と交流拠点となる港湾・空港の利用促進
- 施策2 持続可能な集約連携型まちづくりの推進
- 施策3 持続可能な農山漁村づくりの推進

環境・景観

- 施策1 自然との共生と美しい景観の形成
- 施策2 カーボンニュートラルの推進
- 施策3 サーキュラーエコノミー※5の推進

共創

■多様な主体と連携した取組

■担い手確保・育成の取組

■生産性向上の取組

地域の特性に応じて各種取組を推進

※5 サーキュラーエコノミー：循環経済。リデュース・リユース・リサイクルをさらに発展させ、資源の枯渇や環境負荷といった地球規模の課題解決と経済成長の両立を目指すもの

施策1 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化

- 巨大地震・津波の切迫や水災害の激甚化・頻発化など、巨大災害リスクが高まっている。これら災害等に屈しない、しなやかで強い県土を目指し、災害リスクを最小化するハード・ソフトが一体となった総合的な対策を実施する。

緊急輸送路の耐震対策

- 復旧・復興活動を迅速に行うため、重要路線の橋梁の耐震化や電柱倒壊による道路閉塞の防止対策を推進

橋梁の落橋防止工



無電柱化



伊豆半島の道路ネットワークの強靱化と防災拠点の強化

- 能登半島地震の教訓を踏まえ、地形の良く似た伊豆半島の防災対策を推進



施策1 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化

津波対策の推進

- レベル1規模の津波に対する浸水域や浸水深の減少、避難時間の確保のため、地域との合意形成に基づく高さを満たす施設整備
- 地域の特性にあわせた「静岡方式」による津波対策を県下全域で展開

防潮堤の新設



< 相良海岸〔牧之原市〕 >

水門の新設

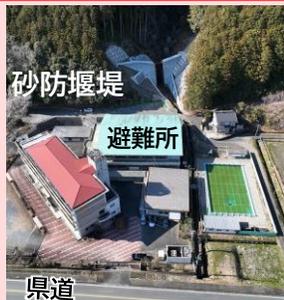


< 馬込川水門〔浜松市〕 >

土砂災害対策の推進

- 土砂災害から命と財産を守るため、土石流対策施設、地すべり防止施設、がけ崩れ防止施設、山地災害防止施設を整備

土石流対策施設の整備



< 黒石南沢〔森町〕 >

がけ崩れ防止施設の整備



< 口野尾高B〔沼津市〕 >

流域治水の推進(事前防災対策)

- 豪雨災害による被害の軽減に向け、流域の特性を踏まえてあらゆる関係者が水災害を自分事として捉え、主体的に治水対策を推進

流域治水の取組のイメージ



しぞ〜か防災かるた



「豪雨の備え編」

遊水地の整備



< 巴川麻機遊水地〔静岡市〕 >

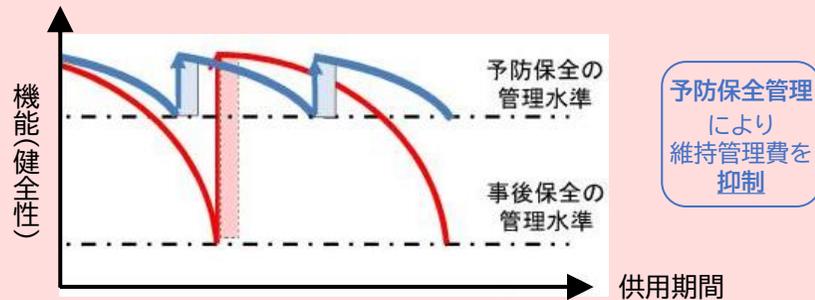
施策2 持続可能なインフラメンテナンスの推進

- 老朽化するインフラにより、県土の荒廃を招かぬよう、また、自然災害が激甚化・頻発化する中で、これまで整備したインフラが事前防災として持続的に効果を発揮するよう、予防保全型インフラメンテナンスの取組を推進する。

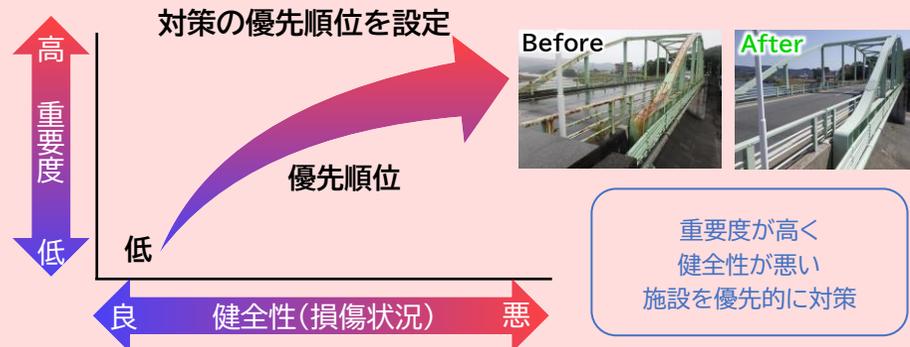
老朽化するインフラの長寿命化の推進

- 費用の縮減・平準化や機能維持を図るため、損傷が軽微な段階で修繕する「予防保全型管理」により計画的なメンテナンスを推進

事後保全と予防保全のちがい(イメージ)



- 災害時の機能維持や施設の利用状況等を考慮しながら、施設の重要度と健全性から対策の優先順位を設定

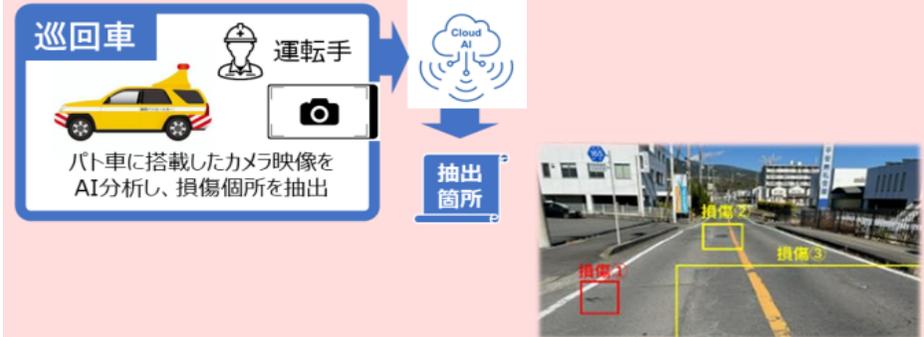


デジタル技術を活用したインフラメンテナンスの効率化

- 工期短縮・コスト縮減、点検精度の向上のため、画像データ及び3次元点群データを取得しAI分析する「トンネル点検」を推進



- 道路パトロールにおいて、異常を早期かつ詳細に把握し、速やかに修繕するため、AI技術を活用した「道路パトロール支援システム」を導入



施策3 安全で快適な移動空間の確保

- 児童や高齢者など交通弱者が死傷する交通事故が依然として多いなか、官民が連携してハード・ソフトの対策に取り組み、安全な歩行空間や自転車利用環境の整備を推進する。

安全な歩行空間等の整備推進

- 通学路や生活道路などにおいて、人優先の安全・安心な道路を目指し、道路空間の再配分も含めた歩行空間等を整備

歩道の新設・拡幅



< 県道富士宮富士公園線〔富士宮市〕 >

通学路合同点検と安全対策



通学路合同点検

< 県道焼津榛原線〔焼津市〕 >

自転車通行空間の整備推進

- 「交通安全」の観点と、「サイクルツーリズム」の観点から、関係機関と連携して自転車通行空間等を整備

自転車通行空間の確保(自転車通行帯)



< 県道島田岡部線〔藤枝市〕 >

自転車通行空間の確保(矢羽根)



< 県道三島裾野線〔三島市〕 >

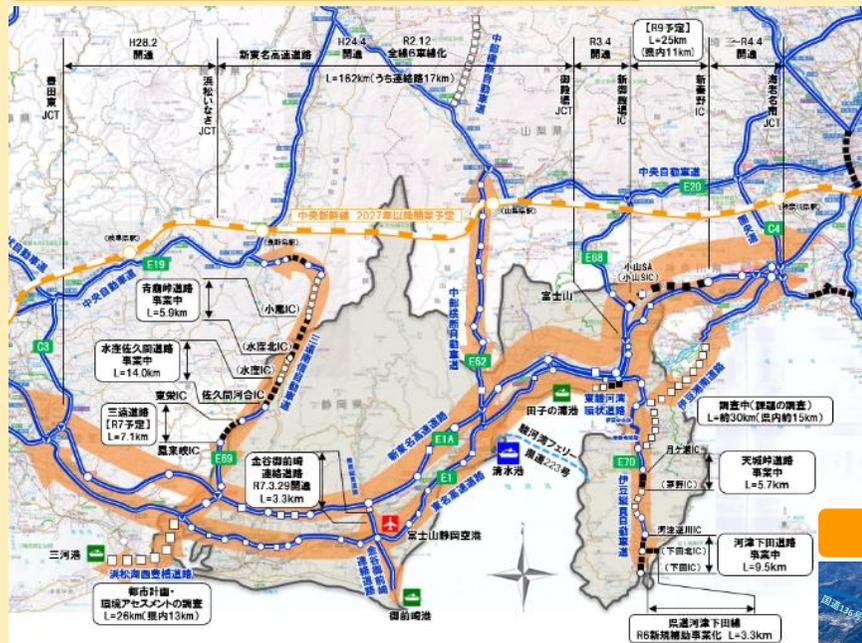
施策1 陸海空の交通ネットワークの強化と交流拠点となる港湾・空港の利用促進

- 高規格道路や富士山静岡空港、清水港、御前崎港など、陸海空の交通ネットワークの形成と強化に加え、国内のみならず海外からの誘客を図る港湾・空港の利用促進の取組により、静岡県の経済・観光を強力に下支えする。

高規格道路等の広域道路網や一体的に機能する周辺道路の整備推進

- 地域間の連携強化と物流の効率化を図るため、高規格道路及び周辺道路までを道路ネットワークの階層に応じて整備

静岡県の道路ネットワーク



国道473号 地蔵峠バイパス

R8開通に向け整備推進



国道414号 静浦バイパス



港湾施設の新設、環境保全等の推進

- 産業競争力強化と交流人口の拡大のため、港湾施設の機能を強化・保全

岸壁の整備



緑地の整備 完成予想パース



施策1 陸海空の交通ネットワークの強化と交流拠点となる港湾・空港の利用促進

クルーズ船の寄港による地域経済の活性化 大型クルーザー誘致に向けた取組の推進

■ 地域経済の活性化及び交流人口の拡大のため、クルーズ船の受入れ環境を整備

ハード面・ソフト面の両面で受入体制を整備（清水港の取組）

ハード面

- ✓ 官民連携により旧4号上屋をクルーズ船の待合施設として整備
- ✓ 周辺の静岡市による海洋文化拠点施設や民間事業者による水族館の整備予定との連携

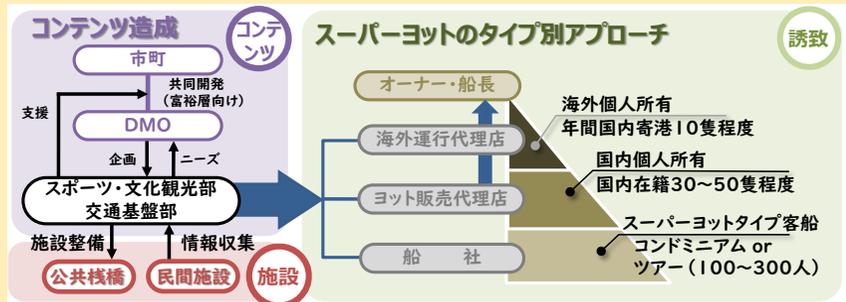


ソフト面

- ✓ 清水港客船誘致委員会による誘致活動
- ✓ 東京都、和歌山、高知、鹿児島各県との連携した誘致活動
- ✓ 歓迎せしモニー等のイベント実施
- ✓ お茶等をテーマとした魅力的な観光コンテンツの開発



■ 富裕層をターゲットとした誘客を促進のため、大型クルーザー（スーパーヨット）を誘致

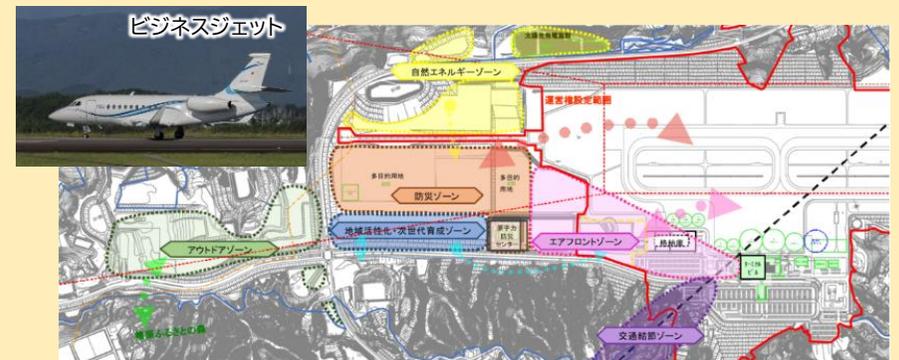


民間活力を活用した空港西側県有地等の利活用促進・ 空港機能の向上

■ 国内外との交流人口拡大による地域の発展に向け、富士山静岡空港の路線の充実と利用拡大を促進



富士山静岡空港路線図(2025年冬ダイヤ)



富士山静岡空港西側用地活用方針のゾーニング

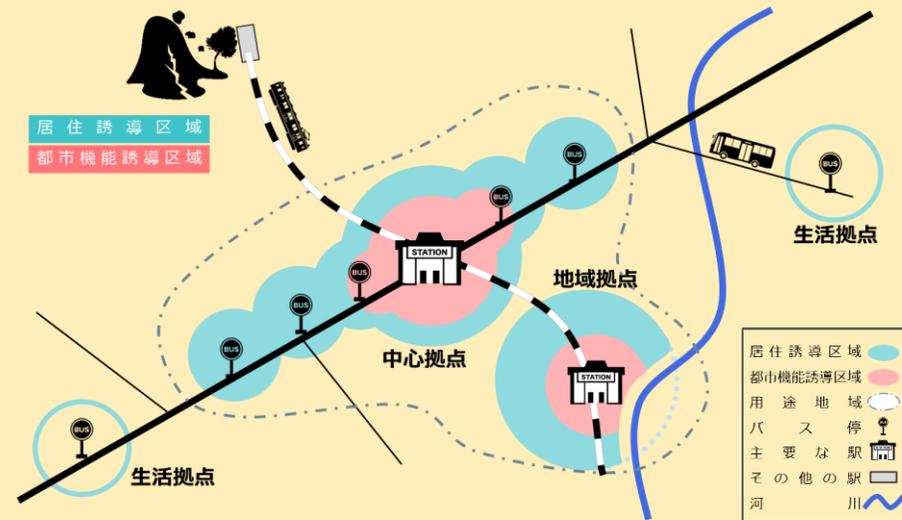
施策2 持続可能な集約連携型まちづくりの推進

- 立地適正化計画等による居住や都市機能の適正な配置を進めるとともに、拠点間の移動を円滑にするため、公共ライドシェアを始めとした地域公共交通のリ・デザインを進め、コンパクト・プラス・ネットワークの取組を推進する。

立地適正化計画に基づく居住や都市機能の適正な配置

- 市町の立地適正化計画の作成を支援し、医療・福祉・商業等の誘導により、居住や都市機能の適正な配置を促進
- 中心拠点だけでなく、その他の生活拠点も含めた多極ネットワーク型の都市構造の構築

都市づくりの目標



公共ライドシェア等の導入支援

- 交通空白地域の解消のために、伴走支援により県内市町の公共ライドシェア等の導入を促進

最適化のイメージ



公共ライドシェアの導入支援



沼津駅周辺総合整備事業を始めとした区画整理事業、市街地再開発事業、街路事業の推進

- 公共施設の整備改善と宅地の整形化、都市機能を集約

連続立体交差事業 完成予想図



< 現あまねガード(沼津駅付近) >

土地区画整理事業



< 沼津駅第一地区 >

施策3 持続可能な農山漁村づくりの推進

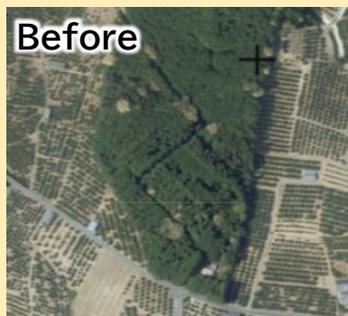
- 農山漁村において、農林水産業が持続的に行われるとともに、地域の活力の維持・向上のため、農地、農林道や漁港の整備等の基盤整備を推進する。

区画整理等による生産コストの低減と高収益作物の導入支援

- 生産性と収益性の向上・低コスト化のため、農地の基盤を整備



< 下泉原地区(川根本町) >



< ミケ日みかんの里地区(浜松市浜名区) >

漁港施設の整備・適切な管理

- 安定した漁業活動の継続のため、耐震化整備や長寿命化対策による漁港施設の機能の強化、維持、保全を推進

防波堤の粘り強い改良



航路の浚渫



林道の改良・舗装による機能強化

- 既設林道の輸送能力の向上や安全確保を図るため、舗装や局部的構造の改良を推進



施策1 自然との共生と美しい景観の形成

- 本県の持つ豊かな自然環境と美しい景観を活かしながら、良好な環境を保全するとともに、生物多様性の保全を十分に考慮した基盤整備を推進する。

河川・海岸の景観形成と環境に配慮した整備の推進

- 歴史・文化や多様な河川環境、景観等に配慮した河川海岸を整備

歴史・文化との調和



< 神田川 [富士宮市] >

河川環境に配慮



< 庵原川 [静岡市] >

海岸景観の保全

Before



消波ブロックを撤去して景観に配慮

After



< 清水海岸 [静岡市] >

森の防潮堤づくりによる海岸防災林の造成

- 静岡モデル防潮堤の施工に合わせ、海岸防災林の再整備と機能強化のため、クロマツ等を植栽し、自然と生活環境に調和した森づくりを推進



クロマツ等の植栽による海岸防災林の復元

森の力再生事業による荒廃森林整備

- 多様性のある広葉樹林に誘導するため、荒廃した竹林を整備

Before



After



施策2 カーボンニュートラルの推進

- CO2の排出削減に加え、省エネルギー対策の強化や自然資源を活かしたCO2の吸収対策など2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組を推進する。

CO2の排出削減

- 清水港、御前崎港、田子の浦港、富士山静岡空港等の脱炭素化を推進

水素ステーションの整備



< 清水港袖師地区 >

県営上屋へのPPA方式の導入



< 清水港日の出地区 >

次世代太陽電池の実証実験



< 清水港興津地区 >

省エネルギー対策の強化

- 消費電力削減のため、道路照明灯(トンネル照明含む)や県有建築物の省エネルギー化を推進

道路照明灯のLED化



県有建築物のZEB化



< 藤枝東高等学校 >

CO2の吸収対策の推進

- ブルーカーボン生態系の拡大を推進

アマモによる藻場の形成



< 御前崎港久々生海岸里海プロジェクト >

- 森林の吸収源対策

間伐等の森林整備



施策3 サークュラーエコノミーの推進

●循環経済の構築のため、廃棄物をできるだけ無くし、限りある資源を有効に長く使い続けられる取組を推進する。

県産材利用の推進

■多くの県民に触れる公共施設や公共土木工事で、静岡県産材を率先的に利用

公共施設整備



< 茶業研究センター >

公共土木工事



木柵護岸

浚渫土(脱水処理土)の有効利用

■港内に流入する泥土の、養浜や建設資材等への有効利用を推進



建設発生土の有効利用

■工事現場から発生する土砂を資源として捉え、建設発生土の利活用を推進

SSM※6による情報共有



ストックヤードの活用

土砂を一時仮置きするストックヤードを整備



技術相談窓口の設置

民間事業者等への技術的な支援を実施



※6 SSM: 静岡県建設発生土マッチングシステム

●社会情勢の変化を捉え柔軟に対応していくため、地域や産学官が連携し、担い手確保・育成や生産性向上などの様々な課題を解決していく。

多様な主体と連携した取組

公共ライドシェア等の導入促進

■ 地域や民間等あらゆる関係者と連携し、公共ライドシェア等の導入を促進

運行管理の共同化の推進

公共ライドシェア等の実施に必須となる運行管理について、民間のノウハウを活用し、市町が共同で利用できるプラットフォームを構築



ドライバーバンクの設置

ドライバー不足に対応するため、「ドライバーバンク」を設置



地域と連携したまちづくりの推進

■ 道路の持続可能な景観形成や道路空間を使った賑わいづくり、河川や海岸の美化活動など、地域と連携したまちづくりを推進

美化活動

住民等が清掃や除草等を行う美化活動



ほこみち制度

地域と連携した賑わいのある道路空間の創出



一社一村しずおか運動

農村と企業等の協働に向けた情報交流やマッチングの促進



道路協力団体による景観管理活動

道路における身近な課題解消等に取り組む民間団体を支援

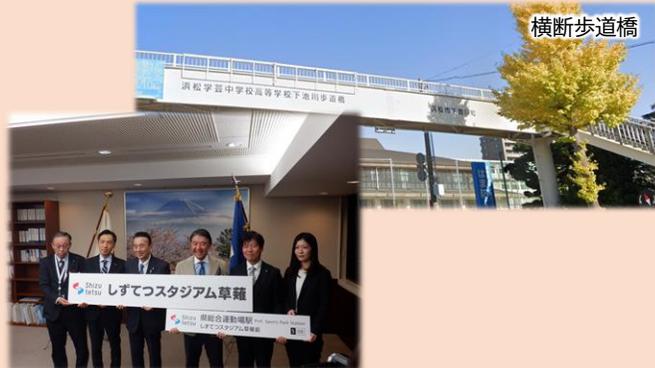


多様な主体と連携した取組

インフラ経営の推進

■ 県民への良好なサービスを提供するため、インフラの整備・維持管理・運営にPPPやPFI、コンセッション※7など民間活力を導入

ネーミングライツ



< 草薙総合運動場（硬式野球場） >

カーボンプレジット



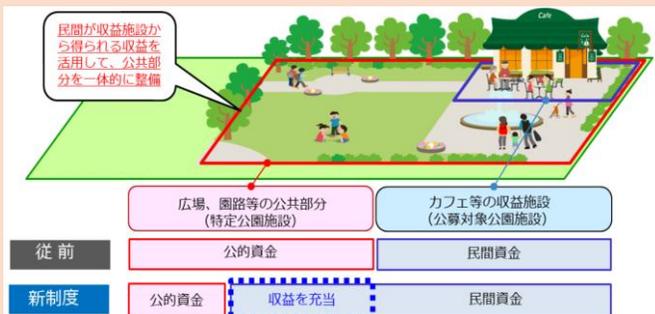
< 稲穂県営林〔下田市〕 >

インフラツーリズム



< 太田川ダム〔森町〕 >

パークPFI・みなと緑地PPP



ウォーターPPP(官民連携導入検討)



< 狩野川東部浄化センター >

公共施設等運営権制度を活用した空港運営



< 富士山静岡空港 >

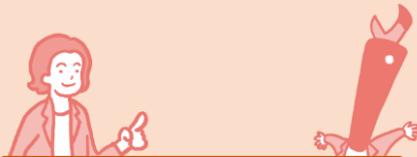
※7 PFI：民間事業者に建設から維持管理・運営まで一貫して委ね、長期間に渡るサービス対価を支払う方式
 PPP：民間のノウハウや資金を活用し、効率的で質の高い公共サービスを提供するために官民が連携して運営する方式
 コンセッション：料金徴収を伴う公共施設の所有権を自治体が維持したまま、運営権を民間事業者に設定・売却する事業方式

担い手確保・育成の取組

建設産業の重要性やものづくりの楽しさ等の魅力発信

- 建設産業に対する理解促進や担い手確保・育成に向け、「静岡どぼくらぶ」をプラットフォームとした戦略的広報を推進

図画コンクール



出前講座

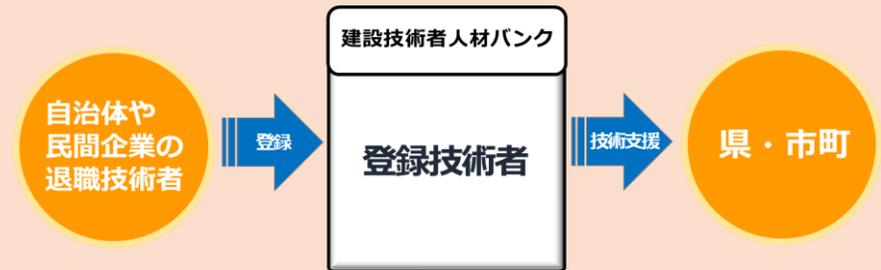


現場見学会



建設技術者人材バンクの創設

- 技術力の向上や人材不足に対応するため、退職技術者を活用する「建設技術者人材バンク」を創設



デジタル工事銘板の普及

- 現場の士気・モチベーションを向上するため、従事した建設作業員を紹介する「デジタル工事銘板」を作成、SNSで公開



YouTube動画

担い手確保・育成の取組

働きやすい職場環境の確保

- 働きやすい職場環境の定着を推進するため、原則、県内公共工事ですべての土曜日を休工に設定

毎週土曜日は一斉休工！“ふじ丸デー”

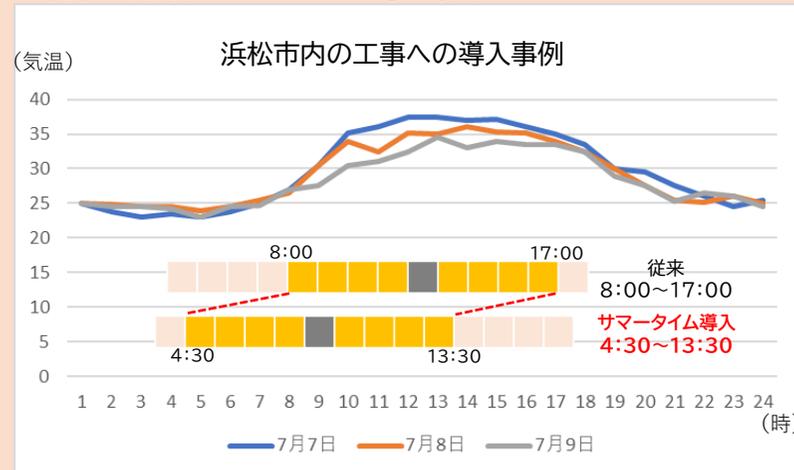


建設現場も働き方改革@静岡

「ふじ丸」とは・・・

県内建設産業の働き方改革の取組を応援することをイメージしたロゴマークの愛称です

- 建設現場における夏場の熱中症対策を推進するため、作業時間を涼しい時間帯に変更する「サマータイム」を導入



- 円滑な施工確保や建設業の経営の健全化のため、平準化の促進に向けた取組を推進

施工時期の平準化に向けた「さしすせそ」の取組

- ① 債務負担行為の活用(さ)
- ② 柔軟な工期の設定(工事着手日選択型工事の活用)(し)
- ③ 速やかな繰越手続(す)
- ④ 積算の前倒し(せ)
- ⑤ 早期執行のための目標設定(執行率等の設定、発注見通しの公表)(そ)

工事着手日選択型工事の改善(令和7年2月～)

工事着手期間の見直し 90日→180日

発注者指定タイプの追加

議会の議決を要する案件への対応

開札日 契約日 工事着手日選択工事 工事着期限日

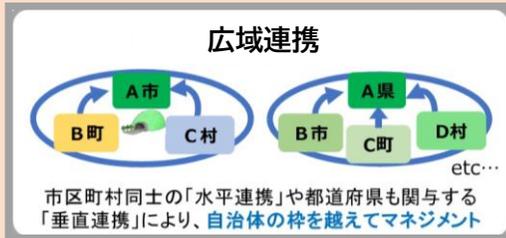
180日(又は6か月)以内

工事着手期間
(受注者は期間内の任意の日を着手日に指定)

生産性向上の取組

包括的なインフラ管理委託の推進

- インフラの適切な維持管理と建設業者の維持のため、包括的な管理で生産性向上を図り、将来にわたり持続可能なインフラの維持管理手法を構築



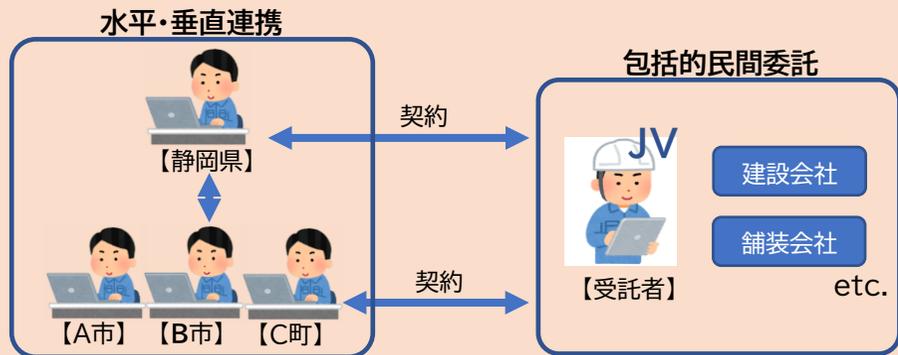
【ケース1: 広域連携】

既存の行政区域に拘らない広域的な視点で、業務効率化



【ケース2: 他分野連携】

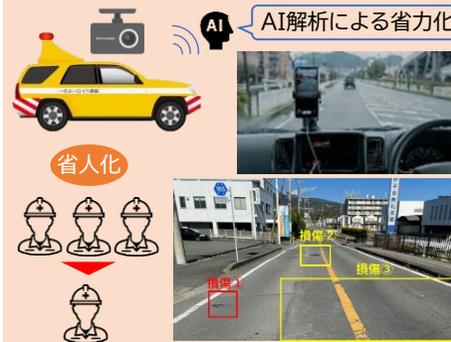
複数分野の施設を「群」として捉え、メンテナンスをまとめて実施し効率化



デジタル技術を駆使した効率的な維持管理手法の導入

- 巡視点検の省力化や高度化を図るため、3次元点群データ取得やドローン撮影、AI画像解析等を活用し、持続可能な維持管理手法を構築

AI解析を活用した道路パトロール



UAVによる施設点検



- 県民サービス向上や業務効率化を図るため、3次元点群データと施設台帳を連携



生産性向上の取組

VIRTUAL SHIZUOKA

- 現実空間の「3次元点群データ」を取得し、仮想空間に静岡県を再現する“デジタルツイン”の基盤データとして蓄積・オープンデータ化を推進



- まちづくり、インフラの維持管理、防災対策だけでなく、観光や自動運転、エンタメなど、社会全体で利活用し、新たな価値(イノベーション)を創出

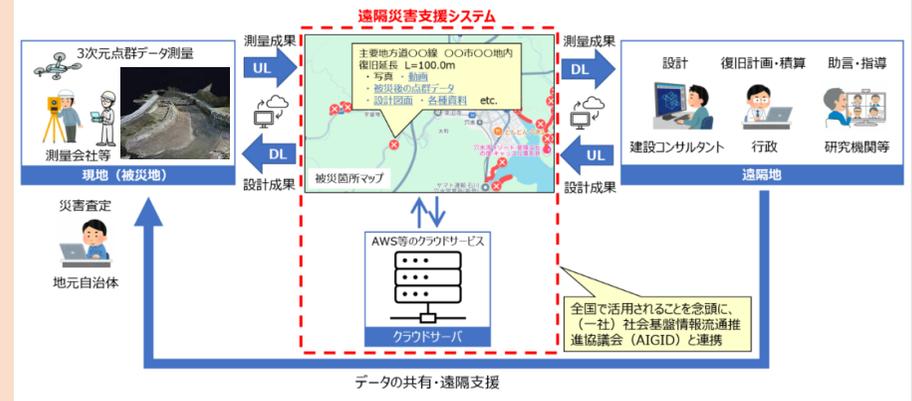


遠隔地から災害支援を可能にする仕組みづくり

- 遠隔地から被害状況の分析・計画・設計等を可能とするシステムを構築し、リモートで災害復旧を支援できる仕組みづくりを推進



施策のイメージ



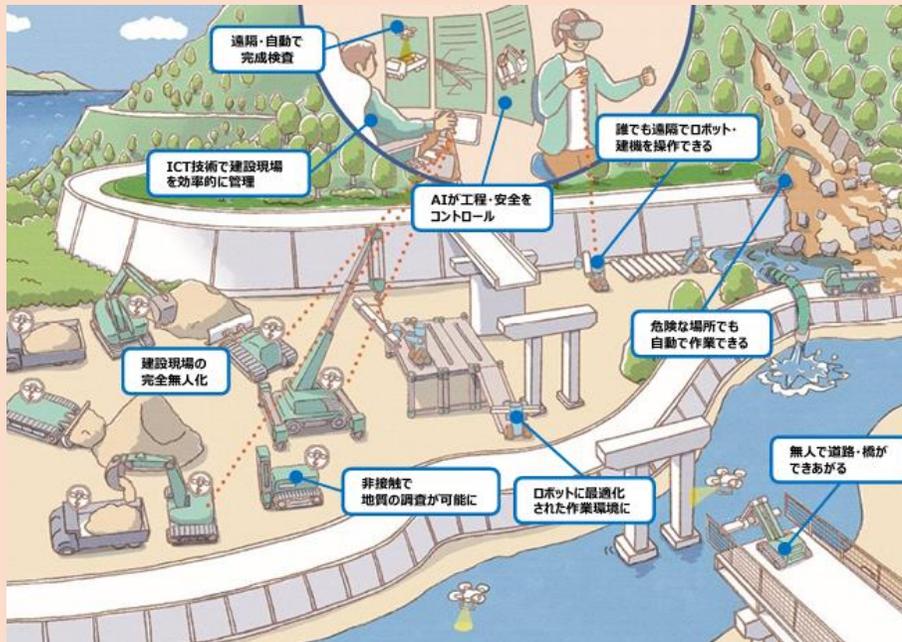
全国で活用されることを念頭に、(一社)社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)と連携

データの共有・遠隔支援

生産性向上の取組

建設産業におけるi-Construction2.0の推進

- 建設生産システム全体の効率を高め、省人化技術の導入を促すとともに、建設現場のオートメーション化により、生産性の向上や安全性の確保を推進

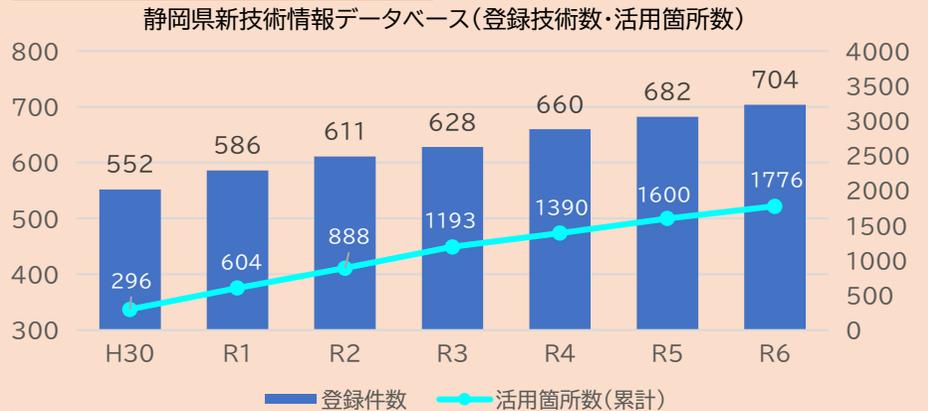


出典：国土交通省資料から引用

新技術・新工法の普及

- 土木工事の効率化・省力化、品質確保や安全性の確保など諸課題の解決を促進するため、民間等で開発された優れた新技術を活用

新技術・新工法の活用



新技術交流イベントの開催



新技術交流イベントinShizuoka2025
～建設現場の生産性向上～

6 インフラビジョンの実現に向けて



県はこれまで、多くのインフラを整備・管理してきたが、インフラビジョンの実現に向けては、将来を見据えた投資の選択と集中、優先順位の設定などが必要となってくる。加えて、今後はインフラの質を高め、賢く使っていくことも重要となる。

そのため、あらゆる関係者との連携によるインフラマネジメントを実行するとともに、その施策・取組については、静岡県インフラビジョン推進会議等を通じてフォローアップしていく。

多くの課題が複雑に絡み合う今こそ、あらゆる関係者がインフラの重要性を認識し、同じ方向に向かって一体的に行動することにより、安全・安心で未来に向けて生きがいを感じられる魅力的な地域を実現していく。

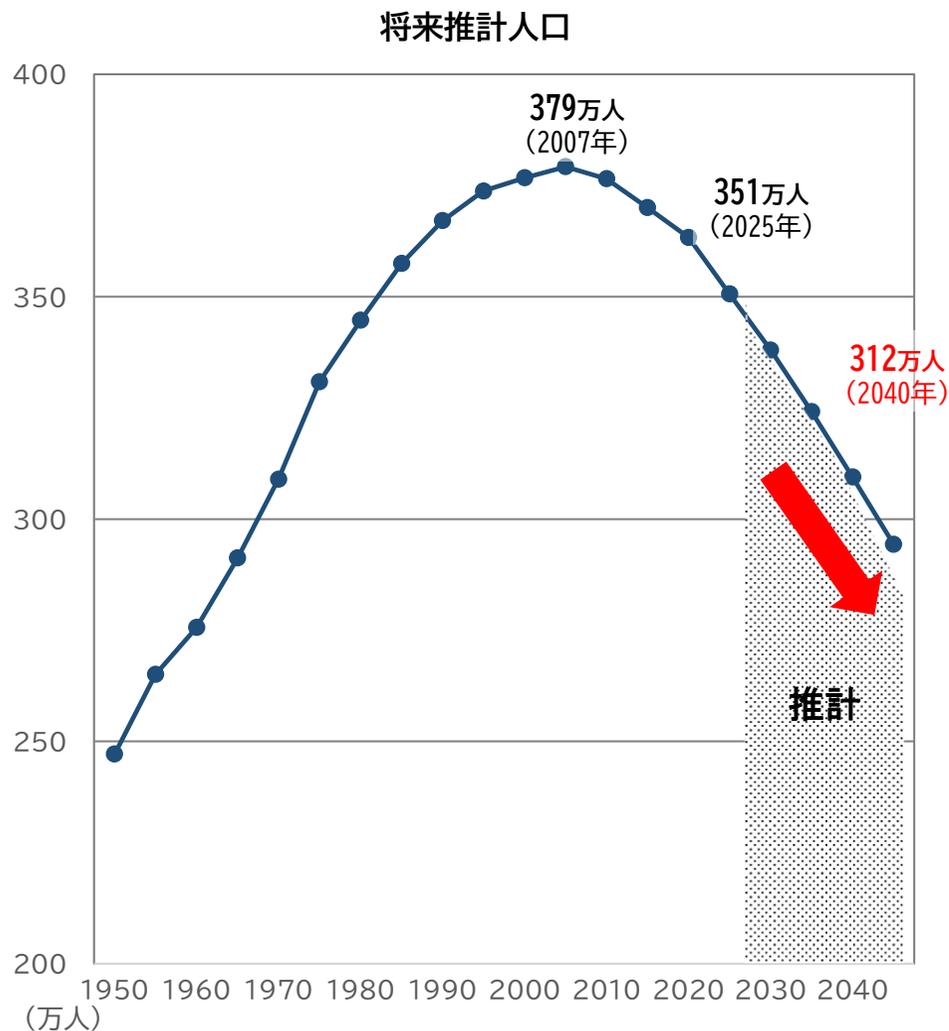
策定に関わっていただいた有識者の皆様 【静岡県インフラビジョン推進会議 委員】

(委員長以下、五十音順)

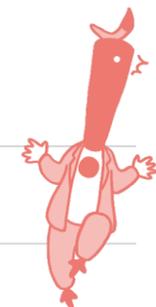
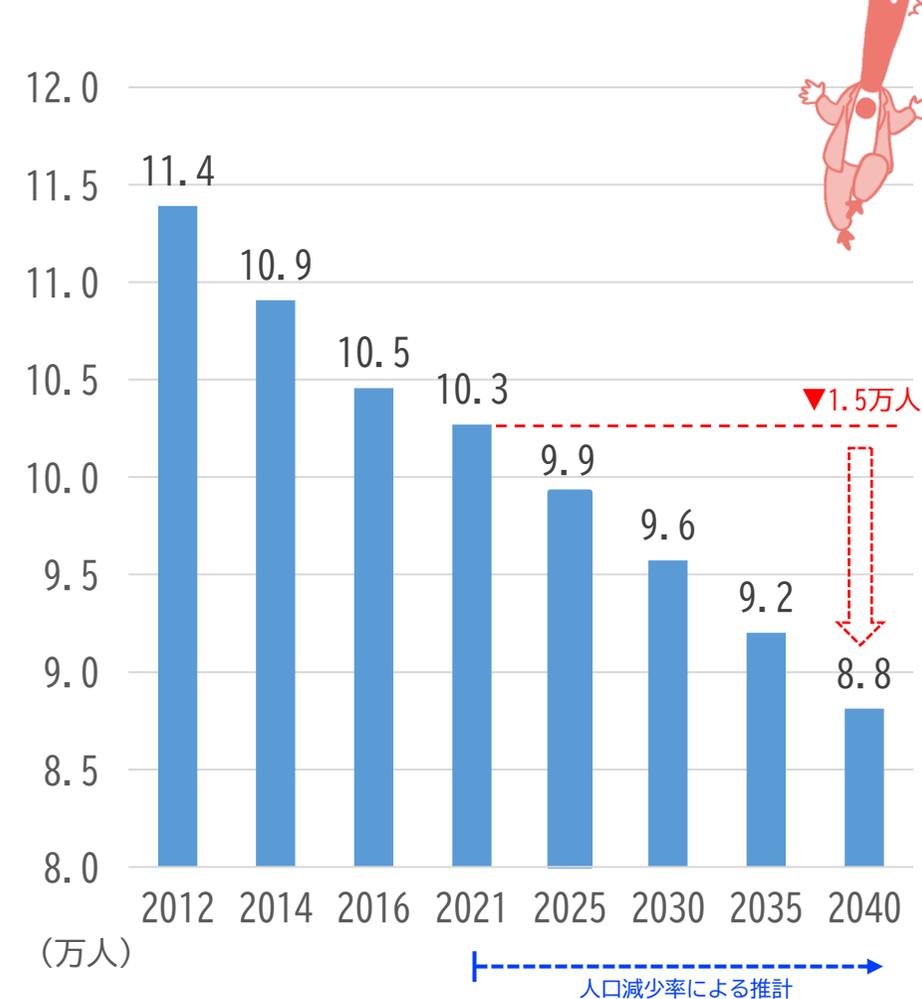
氏名	所属・役職	専門分野
(委員長) 日詰 一幸	国立大学法人静岡大学 学長	行政学
内海 佐和子	県立大学法人静岡県立大学 経営情報学部 教授	都市計画
川島 康明	一般財団法人静岡経済研究所 理事 研究部長	地域経済・産業/企業防災
五味 響子	しずおか流域ネットワーク 副会長	環境教育/環境保全
下川 澄雄	日本大学 理工学部 特任教授	交通工学
原田 賢治	国立大学法人静岡大学 防災総合センター 准教授	津波防災工学/海岸工学
平井 一之	一般社団法人静岡県環境資源協会 会長	環境経営/省エネルギー
山内 秀彦	特定非営利活動法人地域づくりサポートネット 代表理事	地域づくり

- ◆ 静岡県の人口は、2040年以降は300万人を切る見込みで、人口減少が加速化
- ◆ 労働人口の減少に伴い、地域の守り手となる建設業従事者数も減少見込み

◆人口減少



◆県内建設業従事者数

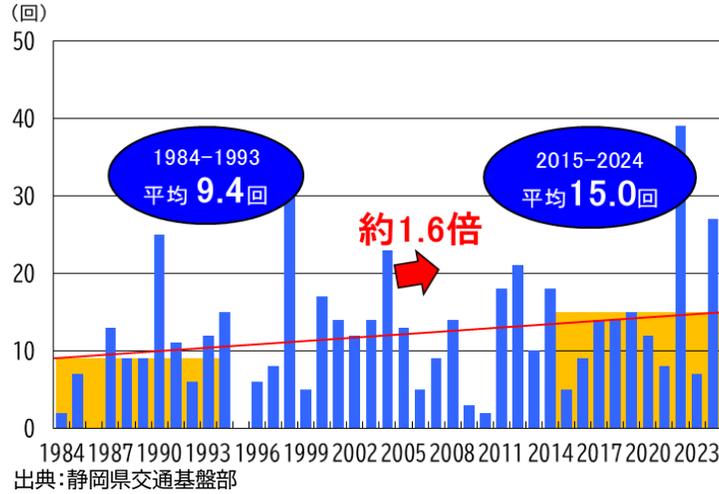


出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2023年推計

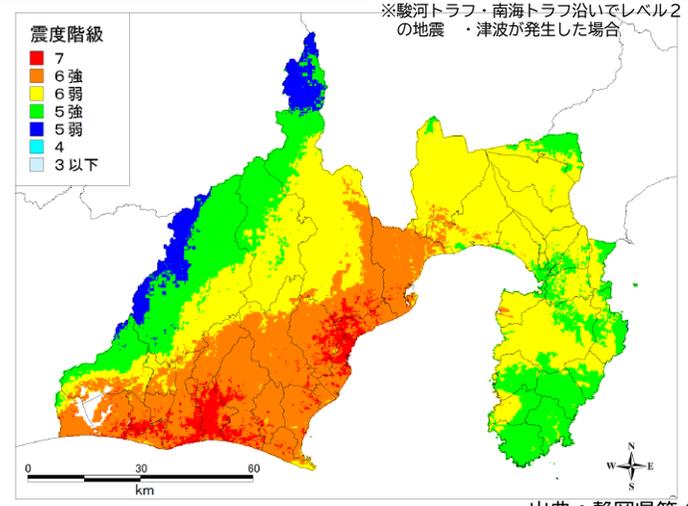
出典：経済センサス（総務省）
 ※2021までは実績値。2021を基準値として人口減少率で推計
 ※人口減少率：2025：96.6%、2030：93.2%、2035：89.6%、2040：85.8%

- ◆ 時間雨量50mm以上の降雨発生回数は過去と比較して増加傾向(頻発化)
- ◆ 令和4年の浸水被害はここ30年間では最大(激甚化)
- ◆ 南海トラフ巨大地震の発災に備え、「静岡県地震・津波アクションプログラム2023」により、想定犠牲者の9割以上減の維持を目標

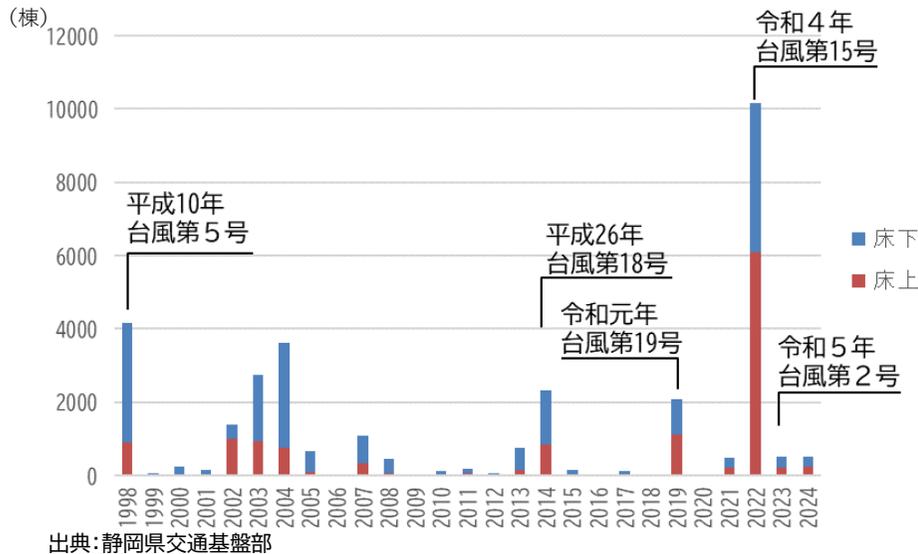
◆静岡県における時間雨量50mm以上の降雨発生回数



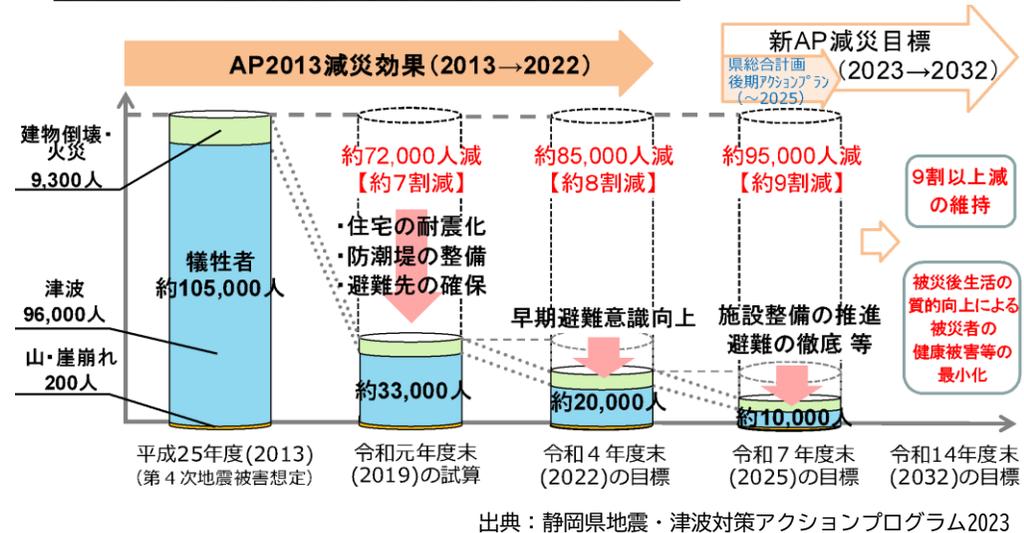
◆南海トラフ巨大地震での推定震度



◆静岡県内における浸水被害の推移



◆南海トラフ巨大地震による被害想定と削減目標



こども・若者に対する意見聴取

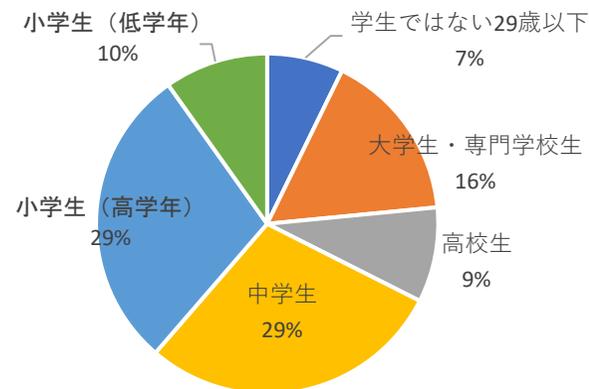
こども・若者を対象に、生活がより安全に、より豊かに、より便利になるよう、インフラに関する意見を募集。

媒体：こえのもりしずおか※8

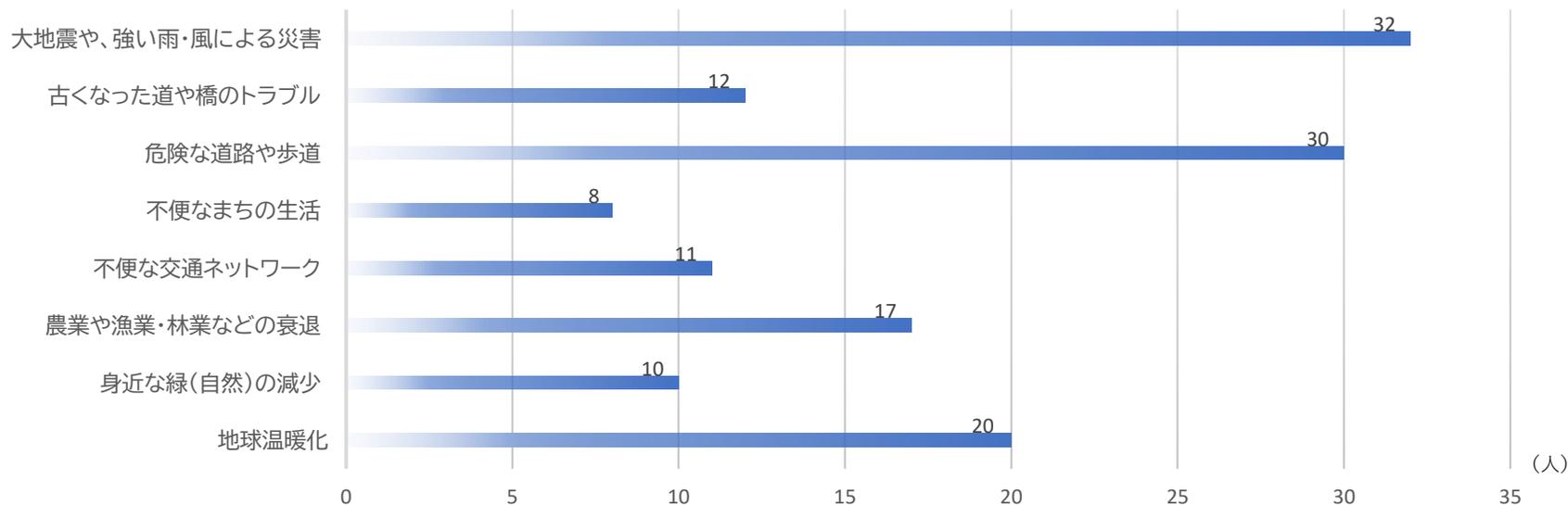
期間：令和7年7月～8月(約1ヵ月間)

回答者数：56名

回答者の分布



問1 「あなたのまち」で困っていることやちょっと心配だなと思うことはありますか？



※8 こえのもりしずおか：静岡県で運用しているこどもや若者の意見を聞くオンラインプラットフォーム

問2 あなたが選んだ「まちの困りごとや心配なこと」について、
どうしてそれを選んだのか、その理由や意見を教えてください。

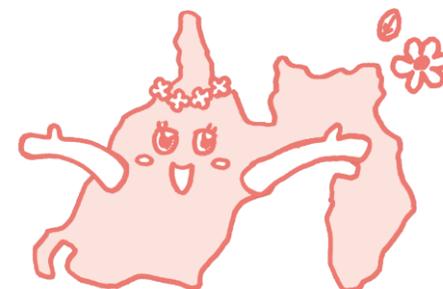
みなさんの意見を
しっかり反映します



まちの困りごとや 心配なこと	理由や意見	意見の反映(記載ページ)
大地震や、強い雨・風による災害	海に面している地域の津波被害の復旧に対する不安 南海トラフ巨大地震に対する備え 津波からの避難に対する不安(津波到達までの時間や、避難する建物の有無) 大雨による冠水被害、道路の崩壊	P14、15
古くなった道や橋のトラブル	老朽化した公園施設 道路の凸凹や雑草の繁茂	P16、17
危険な道路や歩道	自転車レーンが狭く、危険 歩行者や自転車が安全に通れない道が多い 自転車ユーザー側に立った整備がされていない。(ルールに整備が追いついていない) 蓋のない側溝。消えかかった白線 歩道が狭く、危険	P17
不便なまちの生活	バス停や駅の少なさ(鉄道空白地域が多い) バス停やバスの運行本数の減少	P20
不便な交通ネットワーク	大型商業施設が限られており、車でのアクセスに時間がかかる 土日の交通渋滞の多さ	P18、20
農業や漁業・林業などの衰退	全ての産業は林業・農業・漁業によって成り立っている 放置された山林の増加	P21
身近な緑(自然)の減少	メガソーラーパネルによる自然破壊 学校など公共施設の植栽の減少 使われていない田んぼや畑の開発	P22
地球温暖化	登下校中など朝でも暑い 日本の平均気温は過去100年で1.35℃も上がっている 自動車による排気ガスの排出 気候変動による断水被害	P23、P24

問3 あなたは、大人になった時（2050年ごろ）、どんな「まち」に住みたいですか？

住みたいまち	意見の反映(記載ページ)
事件・事故が少なく、災害対策がしっかりされてるまち	P9
交通の便がよく住みやすいまち	P10
渋滞の少ない、都市部へのアクセスがしやすいまち	
ゴミの無い、きれいで住みやすいまち	
都会すぎず田舎過ぎない、ちょうどいいまち	
いろいろなお店がある、観光スポットがあるまち	P10、11
経済が発展していて、自然にも優しいまち	
今の静岡のようなまち、静岡らしさを残したまち	
自然を残しつつ、車などの技術が発展したまち	P11、12
自然を残しつつ、事故のない安全なまち	





幸福度日本一の静岡県

令和8年3月策定

詳しい情報はコチラ



静岡県のお姉さん

インフラについて
優しく教えてくれる
静岡県LOVEなお姉さん。



インフラミンゴ

インフラについて興味津々で
常に首が「？」マーク。
驚くと首が「！」になる。



いっしょに、未来の地域づくり。

静岡県交通基盤部政策管理局建設政策課

表紙の絵：「わたしの“未来のまち”はこんな“まち”」 図画コンクール応募作品



2025中学生の部 最優秀賞
「New Port Town Shizuoka」



2024中学生の部 最優秀賞
「改良南伊豆」



2025小学生の部 最優秀賞
「未来輝く清水港」



2024小学生の部 最優秀賞
「みんながすごしやすい未来」



2023中学生の部 最優秀賞
「夢いっぱい未来しずおか」



2023小学生の部 最優秀賞
「グリーンタウンレール静岡」